

「高等学校における探究活動の充実に向けて」

～進学校における「総合的な探究の時間」の導入に向けた研究～

1 研究の背景及び研究の目的

新学習指導要領では「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」へ名称が変更となった。名称の変更にとどまらず、「総合的な探究の時間」が教育課程の中核や、学校のミッションを体现するものとなることが示され、さらに、コンピテンシーに基づく学校の特色化の必要性が説かれている。

また、他の都府県の進学校は、スーパーサイエンスハイスクールやスーパーグローバルスクールの研究指定事業を受け、総合的な探究の時間に示された探究を先取りして実践している状況が見られる。しかし、道内の進学校においては、自己の在り方生き方に結び付いた探究を実践しているところは少ないと考えられる。

このように、教育課程において、「総合的な探究の時間」がますます重要となる中、道内の高校、特に進学校の将来を考え、道内の高校における「総合的な探究の時間」の一層の充実を目指して、これまで取組が不十分であった学校の現状を分析し、「総合的な探究の時間」の導入に向けた学校経営や資する資料等を作成した。

2 道内進学校における「総合的な学習の時間」の現状分析

北海道高等学校長協会の調査研究資料や進学校の教員の聞き取り調査などから、「総合的な学習の時間」において、これまで探究的な活動が推進されてこなかった要因を、次の3つがあると分析した。

ア 探究活動の理解が不十分（進学指導の妨げとなるという認識）

イ 業務量の増加と導入への不安

ウ 探究活動や評価への不安

本調査研究では、こうした阻害の要因を解消し、総合的な学習の時間における探究活動推進のための資料を作成することとした。

3 「総合的な探究の時間」の推進に向けて

本調査研究では、推進を阻害する3つの要因それぞれについて解消するポイントを次のおり整理した。

アの解消として、教員は次のことについて理解を深める必要がある。

① 探究の必要性

② 「総合的な探究の時間」における探究

③ 進学指導との関連

④ 学校全体で実施する必要性

イ及びウの解消として、次のことが必要である。

⑤ 業務増加への対応

⑥ 簡便な評価方法

以上、6つのポイントを踏まえて、校内研修などで活用できる資料、簡便な評価方法を提案する。

4 総合的な探究の時間への移行のための今後の課題

総合的な探究の時間は、学校経営との関連が一層重視されることから、カリキュラム・マネジメントとともに推進すること、IT機器を一層整備すること、「チーム学校」として外部と連携した取組を推進することなどが課題として考えられる。

5 協力校

本調査研究に当たっては、北海道札幌西高等学校及び札幌新陽高等学校に協力いただいた。両校の協力に感謝申し上げます。

6 研究及び執筆担当者

坪川 泰嗣（研究・相談部長）

前川 洋（研究・相談部研究主幹）

福本 正規（研究・相談部主査）

沖野 高志（研究・相談部主査）

鈴木 肇（研究・相談部研究研修主事）

樋口 かおり（研究・相談部研究研修主事）

佐藤 淳（研究・相談部研究研修主事）

小野 智希（研究・相談部研究研修主事）

守屋 正人（研究・相談部研究研修主事）

柳本 高秀（附属理科教育センター主査）

平成29年度までの研究及び執筆担当者

平田 嘉宏（前研究・相談部長・現高校教育課企画・支援担当課長）

城戸 和彦（前研究・相談部研究主幹・現北海道白老東高等学校長）

鎌田 康平（前研究・相談部研究研修主事・現空知教育局指導主事）

潟沼 史朗（前研究・相談部研究研修主事・現千歳市立椋木小学校教頭）

西埜 聡明（前研究・相談部研究研修主事・現上川教育局指導主事）

上野 昌生（前研究・相談部研究研修主事・現上川教育局指導主事）

金本 吉泰（前附属理科教育センター研究研修主事・現北海道札幌西高等学校教諭）

（平成31年3月現在）